

# オープンデータとAIの可能性

2022/3/30

第3回デジタル臨時行政調査会 提出資料



株式会社ビースポーク

代表取締役 綱川明美

東京都渋谷区渋谷2-21-1 渋谷ヒカリエ8F

# オープンデータとAIの関係

AI = シェフ   
 データ = 食材 

AIプロジェクトの  
 約**80**%はデータの準備や加工

現状の課題: AI技術は存在するのに**データが不足**  
 (=シェフはいるのに食材が不足)

行政データがオープンになる  
 (=食材が手に入ると)

新サービスが生まれる  
 (=今までにない料理が食べられるようになる)



総合案内



問い合わせ対応



観光案内



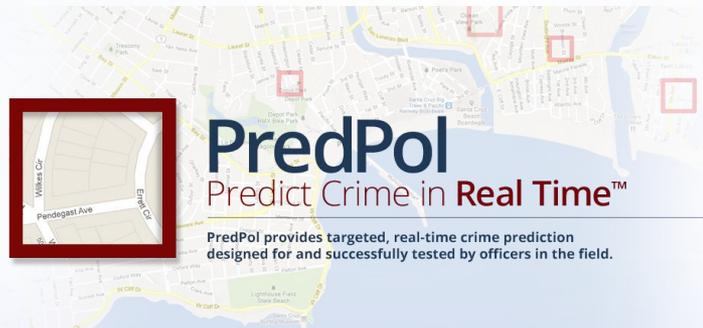
災害対応

これらが自動化される

# オープンデータの活用事例(海外)

## 予測: 犯罪予測

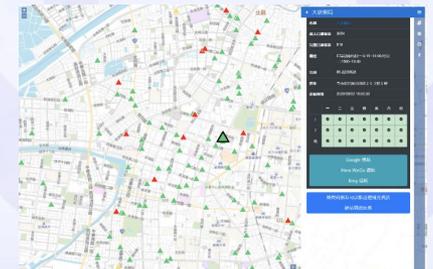
- サービス: 過去データと「予測モデル」に基づき地図に表示
- データ: 車上荒らし、住居強盗、自動車盗、拳銃等を使った犯罪、暴行など犯罪データを公開
- 効果: 公開されたデータを元に開発された民間サービスの予測は、ベテラン刑事の予測より2.3倍的中。米国サンタクルズ市は2年で犯罪が17%減
- その後: 米国アトランタ等、60都市で導入され、国際的に増加中



参照: 「ビッグデータで犯罪予測、治安を改善したサンタクルズ市の挑戦」(日経トレンディネット) 「LA、アトランタ...米警察で犯罪予知技術を導入」(2015/2/19 日本経済新聞電子版)ほか

## 最適化: マスクの在庫把握

- サービス: マスク在庫のある店舗をアプリで把握
- データ: 政府が在庫のリアルタイムのデータをCSVファイルで公開
- 効果: 公開されたデータを元に、民間企業が情報提供のためにアプリを開発し、国民がマスクのリアルタイム情報にアクセスできた
- 仕組み
  - 政府がマスク購入にICチップ保険証提示を義務付け。入国管理データと連携。(14日以内に中国本土渡航歴がある人の来院を医師に通知)



参考: Hal Seki「台湾政府がマスクのリアルタイム在庫状況を公開し、数日で50以上のアプリが爆誕」2020/02/08 [https://note.com/hal\\_sk/n/nd5d71fa9ff5d](https://note.com/hal_sk/n/nd5d71fa9ff5d)

# オープンデータの活用案(国内)

## 最適化:発災時の多言語対応

- 必要なデータ
  - 全国の避難・避難場所の設備情報、受け入れ環境、リアルタイムの空き状況
- できること
  - 車椅子可、ペット可、外国語対応可などの条件別で一番近くの空いている避難所をAIが瞬時に検索可能に
- 想定されるインパクト
  - 何かしらの理由で避難をためらっている国民の避難をタイムリーにサポート



## 最適化:法令点検業務の自動化

- 必要なデータ
  - 官報ではなく法令データのベースレジストリ (デジタル正本)
- できること
  - 法令制定作業を実施の際、関連する他の法令を特定し、関係性の整理をサポート
  - 将来的には、自動で文章を作成できる可能性あり
- 想定されるインパクト
  - 関係機関での制定作業の業務量削減

